

入野小学校 校長室だより

2014.6.13(金) No.10 文責：芝

地球のために出来ること

先週はとんでもない雨でしたね。被害はありませんでしたか。お見舞い申し上げます。

月曜日の生活朝会でも、子どもたちに「6月は水無月なのに、大変な雨だった」「1ヶ月で降る雨が1日で降った」ことなどを話しました。

以前はマスコミで『異常気象』という言葉がよく登場していたと記憶しています。ですが、この頃はどうかでしょうか。聞いたことも見たことも無いように思います。異常が普通になったのでしょうか。『異常気象』とは「過去30年の気候に対して著しい偏りを示した天候」なのだそうです。そんな『異常』が『普通』になったとしたら恐ろしいことです。

子どもたちの未来を考えると、環境のために・地球のために真剣に何か考えていかないと、とんでもないことになる、そんな気がしてなりません。

資源の回収や節電など、少しの努力で出来ることはしていきたいものですね。

迷うこと・悩むことの価値

今週は「迷うこと・悩むことの値打ち」を感じる出来事に2つ出会いました。

まず、3年生の算数から。3年生は「千の位に繰り上がるたし算の筆算」に初めて出会います。ある男の子は右のように、

475
+ 781

256

最後に繰り上がり「1」をどうするか悩んでしまいました。処置に困って「256」を答えにしようとする「たし算だから答えが小さくなるはずがない」という友だちの声。そこから更に考えようとする姿勢が素晴らしいと思いました。

そして友だちからのヒントなどで正解に行き着いた時の、この男の子の一言…。

「もう一回やりたい！」

最高の一言です。こんな子どもの姿は、私たちの目指す姿の一つです。

授業の最後に挑戦した「942+58」の問題をクラス全員がスンナリと正解出来たのは、この子が見せてくれた価値の高い姿・前向きな気持ちのおかげじゃないかなと思ったことでした。

次は5年生の算数です。5年生は除数（わる数）が小数という計算に初めて出会います。さらにこの時間は「あまり」も登場して子どもたちを悩ませました。

2.5mのテープを、1人0.7mずつ配ります。

何人に配れますか。また、何mあまりですか。

$$\text{式} \quad 2.5 \div 0.7$$

筆算をするとあまりが「4m」になり、「おかしい」と感じる子どもたちが出てきました。でも、どうしても筆算では「4」になります。数直線をかいて考える子どももいます。数直線で調べると、確かに「4」ではなく「0.4」になります。ですが…。

あまりが「4m」だとする意見に対し、

「もとの2.5mよりも、あまりの方が大きいのはおかしい。」

という反対意見。その意見に対しては、

「それは分かっちゃう。」

「わり算では、わる数・わられる数に同じ数をかけても、答えは変わらないというきまりがある。それなのに…」

と、納得しない子どもたちは主張しました。

本当に素晴らしい子どもたちです。

正解だけを賞賛すると誤答を恐れるようになる、良い結果だけを賞賛すると良い結果がでないことを恐れるようになると言われていきます。でも、こんな「迷い・悩み」を表に出して学んでいると、楽しいだけでなく、更に何か大きな価値がついてくるように思います。